

# International ONSEN Summit

## Oita Prefecture, Japan Report

### 世界温泉地サミット記録誌



**開催期日**：2018年5月25日(金)～27日(日)

**場 所**：大分県別府市別府国際コンベンションセンター  
B-Con Plaza

**主 催**：世界温泉地サミット実行委員会（会長 大分県知事）





世界温泉地サミット  
実行委員会 会長

大分県知事

広瀬 勝 貞

世界中の人々が温泉の魅力を理解し、利用していただくことにより、世界の温泉地が更に発展していくことを期待して開催した世界温泉地サミットでは、世界16カ国17地域から温泉地のリーダーをお迎えし、国内温泉自治体や関係団体等から1,000名を超える参加をいただき、実り多い国際会議になりました。

「世界の温泉地が拓く地域発展の可能性」～温泉がつなぐ地域資源の多様な活用方法～をテーマに、「観光」、「医療・健康・美容」、「エネルギー」の各分野において、それぞれの地域で育ててきた温泉文化や温泉資源の活用事例を共有するとともに、温泉の新たな可能性について活発に議論し、その結果をサミット宣言として取りまとめたところです。

サミットでは、世界の温泉地のリーダーから各分野での幅広い活用について紹介がありました。今回、サミットに合わせ、国内はもとより、海外6カ国のメディア関係者にサミット取材していただきましたが、地球の恵みである温泉の魅力が国内外で発信され、温泉に対する理解や温泉の利用が更に進んだものと考えています。

また、温泉地をめぐる諸課題に対して、示唆に富んだ様々な提案がなされました。

これらを各々の温泉地に取り込み、具体化していくことで、世界の温泉地の更なる活性化に繋がることを期待するとともに、温泉地の発展のため、今後も世界の温泉地による情報交換や議論の場としてサミットが継続して開催されることを祈念しています。

結びに、世界初の温泉地サミットを開催するにあたり、趣旨にご賛同いただき、ご参加くださいました世界の温泉地のリーダーの皆様をはじめ、開催にご協力いただいた、国や関係機関、そして学生ボランティアの皆様から感謝を申し上げます。



世界温泉地サミット  
実行委員会 副会長

開催都市 別府市長

長野 恭 紘

記念すべき世界初の温泉地サミットが、世界各地から温泉地のリーダーをお迎えして、ここ別府市で開催されましたことを大変嬉しく思います。

本サミットでは、「観光」「医療・健康・美容」「エネルギー」の3分野において活発な議論が行われ、実り多い国際会議となりました。特に、議論の中で出てきた、「サステイナブル」＝「持続可能な」というキーワードは、今後、非常に重要になってきます。「温泉」が限りある資源であることを認識し、温泉都市として持続可能な発展を遂げるため、温泉資源の保護とのバランスを考えて活用していかなくてはなりません。

サミット開催が世界の温泉地の更なる発展に繋がるとともに、今後も世界のどこかで継続的に開催され、温泉の持つ可能性が議論されていくことを祈念しております。

さて、別府市は約3,300人の留学生が住む国際交流都市です。市内を巡るエクスカッションでは、国内外の温泉関係者の皆様に温泉情緒を楽しんでいただき、おもてなしできたことを誇りに感じております。

これからも、世界中の方々に感動していただけるよう、別府市ならではのおもてなしに磨きをかけてまいります。

結びに、サミット開催にあたり、御参加くださいました国内外の温泉地のリーダーをはじめ、御支援、御協力をいただきました関係者の皆様、そして、積極的に御協力いただきました学生ボランティアの皆様に対し、心からお礼申し上げます。

## 目 次

### 1. 世界温泉地サミットの概要

|       |   |
|-------|---|
| 全体概要  | 2 |
| プログラム | 3 |

### 2. 開催状況

|                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 世界温泉地サミット全体会議                  | 4~15  |
| ・次第                            | 4     |
| ・主催者・来賓挨拶                      | 5     |
| ・海外参加国紹介スピーチ（16カ国17地域代表）       | 6~9   |
| ・基調講演                          | 10~12 |
| ・事例発表（1）~（3）                   | 13~15 |
| 分科会①~③                         | 16~21 |
| サミット宣言                         | 22~23 |
| 記者会見                           | 24~25 |
| 世界温泉地サミット・第3回全国温泉地サミット歓迎レセプション | 26~27 |
| 立食サロン                          | 28    |
| フェアウェルディナー                     | 29~30 |
| エクスカージョン                       | 31~34 |
| 表敬訪問                           | 35    |
| 第3回全国温泉地サミット                   | 36~37 |

### 3. 関連イベント

|                     |    |
|---------------------|----|
| 世界温泉地観光物産展          | 38 |
| ONSEN・ガストロノミーウォーキング | 39 |

### 4. 運営資料

|                    |       |
|--------------------|-------|
| 広報・啓発              | 40~41 |
| 報道記録（国内）（海外）       | 42~44 |
| 学生ボランティア / 職員のサポート | 45~47 |

### 5. 資料

|        |       |
|--------|-------|
| 実行委員会等 | 48~50 |
| 協力者一覧  | 51    |
| 協賛企業一覧 | 52~53 |

# 1. 世界温泉地サミットの概要

## 全体概要

世界温泉地サミットは、温泉資源の活用や地域発展の可能性について、情報交換や議論を行う世界初の温泉に関する国際会議です。国内外の温泉地のリーダーや研究者等が参加し、基調講演と事例発表が行われた後、3つの分科会において各分野の議論を深め、最終的な成果として世界温泉地サミット宣言が採択されました。

|           |  |
|-----------|--|
| 開催期間      | 2018年5月25日（金）～27日（日）   |
| 開催地       | 大分県別府市<br>別府国際コンベンションセンター B-Con Plaza  |
| 主催        | <b>世界温泉地サミット実行委員会</b><br>会長 広瀬 勝貞（大分県知事）<br>副会長 長野 恭紘（別府市長）<br>副会長 幸重 綱二（公益社団法人ツーリズムおおいた会長）<br>監事 姫野 昌治（大分経済同友会代表幹事）<br>ほか委員14名（P49名簿参照）   |
| 後援        | 経済産業省／国土交通省／観光庁／環境省／外務省／日本貿易振興機構（ジェトロ）／<br>日本政府観光局（JNTO）／日本観光振興協会／国際交流基金／JICA  |
| テーマ       | 「世界の温泉地が拓く地域発展の可能性」～温泉がつなぐ地域資源の多様な活用方法～  |
| 分科会       | ◆分科会①「観光」：ONSENツーリズムの新たな可能性<br>◆分科会②「医療・健康・美容」：健康寿命延伸と癒やしのための温泉活用の展望～ケアからウエルネスの時代へ～<br>◆分科会③「エネルギー」：温泉の持続可能なエネルギーとしての利活用   |
| 海外参加国・地域  | <b>16カ国17地域（国連方式による国名英語表記順）</b><br>1. 中華人民共和国 咸寧市<br>2. 中華人民共和国 烟台市<br>3. チェコ共和国 ホドニン市<br>4. フランス共和国 ヴィシー<br>5. ドイツ連邦共和国 バートクロツィンゲン<br>6. ハンガリー ブダペスト<br>7. アイスランド共和国 グリンダヴィーク（ブルーラグーン）<br>8. イタリア共和国 アバノ市<br>9. ヨルダン・ハシェミット王国 マイン<br>10. モンゴル国 バヤンホンゴル県<br>11. ニュージーランド タウポ市<br>12. 大韓民国 釜山広域市<br>13. スペイン王国 マドリッド<br>14. タイ王国 チェンマイ県<br>15. 英国 バース市<br>16. アメリカ合衆国 アーカンソー州 ホットスプリングス<br>17. ベトナム社会主義共和国 トゥエンクワン省 |
| 数字で見るサミット | <b>1. サミット参加者 1,039名</b><br>うち海外からの参加者：86名<br>うち国内からの参加者：953名（自治体：272名、学会・企業等：262名、その他：419名）<br><b>2. メディア登録者数：46名</b><br>うち海外メディア：6カ国（フランス、ドイツ、イタリア、スペイン、英国、米国）／18名<br>うち国内メディア：20社／28名<br><b>3. 運営スタッフ数 計185名</b><br>うち県・市職員スタッフ：152名<br>うち学生ボランティア：33名  |



# ONSEN プログラム

## 5月25日 (金)

|             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 14:00-16:30 | 第3回 全国温泉地サミット (環境省主催)          |
| 17:45-20:00 | 世界温泉地サミット・第3回全国温泉地サミット歓迎レセプション |

## 5月26日 (土)

|             |  |
|-------------|--|
| 9:00-12:00  | 世界温泉地サミット全体会議<br>主催者挨拶<br>世界温泉地サミット実行委員会会長 大分県知事 広瀬 勝貞<br>来賓挨拶<br>環境大臣 中川 雅治 氏<br>海外参加国紹介スピーチ<br><b>I 基調講演</b><br>「サステイナブル・ツーリズムと世界の温泉地の更なる発展可能性」<br>ヨランダ・ペルドモ 氏 【スペイン】前国連世界観光機関 (UNWTO) アフィリエイトメンバー部門長<br><b>II 事例発表</b><br>(1) 観光<br>「フランスにおける温泉資源を活用した観光客誘致」<br>ジェローム・フリポ 氏 【フランス】カンパニー・ド・ヴィシーCEO<br>(2) 医療・健康・美容<br>「イタリアにおける温泉療養の現状と健康と美を追求した温泉保養への新たな展開」<br>マッシモ・サビオン 氏 【イタリア】アバノ・モンテグロットホテル協会元会長<br>(3) エネルギー<br>「エネルギーと観光：アイスランド・ブルーラグーンにおける地熱発電と地熱資源の多様な利用」<br>アーサ・プリンヨルフスドットティル 氏 【アイスランド】ブルーラグーン・アイスランド研究開発担当役員 |
| 12:00-13:00 | 昼食休憩 ※立食サロン  |
| 13:00-16:00 | <b>III 分科会</b><br>分科会①観光 テーマ「ONSENツーリズムの新たな可能性」<br>分科会②医療・健康・美容 テーマ「健康寿命延伸と癒やしのための温泉活用の展望」<br>～クアからウエルネスの時代へ～<br>分科会③エネルギー テーマ「温泉の持続可能なエネルギーとしての利活用」   |
| 17:00-18:00 | 分科会総括・サミット宣言   |
| 18:10-18:40 | 記者会見   |
| 19:00-21:00 | フェアウエルディナー ※関係者のみ  |

## 5月27日 (日)

|            |                               |
|------------|-------------------------------|
|            | エクスカーション                      |
| 9:30-13:20 | ①観光コース (別府市)                  |
| 8:15-13:20 | ②医療・健康・美容コース (別府市)            |
| 9:30-13:20 | ③エネルギーコース (別府市)               |
| 9:00-16:20 | ④ONSEN・ガストロノミーウォーキングコース (中津市) |

### 関連イベント

#### 世界温泉地観光物産展

2018年5月26日(土)～27日(日) ビーコンプラザ コンベンションホール  
サミット参加国・自治体の紹介ブース、日本各地の物産販売、飲食  
ブース、ステージイベントなどを開催。

#### ONSEN・ガストロノミーウォーキング

2018年5月26日(土) 別府市、27日(日) 中津市  
温泉地を歩きながら、その土地特有の豊かな自然・歴史・文化をめぐり、そ  
の土地ならではの美味しい食べ物・美味しいお酒を「食べて (飲んで)」そし  
て温泉に「つかって」温泉地の魅力を「体感」できるウォーキングイベント。

## 2. 開催状況



# 世界温泉地サミット全体会議

期日／2018年5月26日（土）

場所／ビーコンプラザ フィルハーモニアホール

### 次第

## 開会式典

### 来賓紹介

環境大臣

中川 雅治 氏

チェコ共和国駐日特命全権大使

トマーシュ・ドゥブ 閣下

駐日ハンガリー特命全権大使

パラノビチ・ノルバート 閣下

駐日モンゴル国臨時代理大使

ダンバダルジャー・バッチジャルガル 氏

### 分科会コーディネーター紹介

#### 分科会①観光

亜細亜大学 経営学部 ホスピタリティ・マネジメント学科 准教授

久保田 美穂子 氏

#### 分科会②医療・健康・美容

特定非営利活動法人 健康と温泉フォーラム 常任理事

合田 純人 氏

#### 分科会③エネルギー

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

再生可能エネルギー研究センター 副研究センター長

安川 香澄 氏

### 主催者紹介

世界温泉地サミット 実行委員会 会長

大分県知事

広瀬 勝貞

世界温泉地サミット 実行委員会 副会長

別府市長

長野 恭紘

世界温泉地サミット 実行委員会 副会長

公益社団法人 ツーリズムおおいた 会長

幸重 綱二

### 主催者挨拶

### 来賓挨拶

### 海外参加国紹介スピーチ

## 基調講演

## 事例発表





## 主催者挨拶



世界温泉地サミット 実行委員会 会長  
大分県知事 広瀬 勝貞

各国大使閣下、中川環境大臣、そして世界16カ国17地域からお越しいただいた温泉地のリーダーをはじめ、多くの皆様をお迎えし、世界温泉地サミットを盛大に開催できることはこの上ない喜びです。大分県民を代表し、皆様のご来県を心から歓迎します。古来より、大分県の温泉地では、温泉を生活の一部に取り込んで、朝夕、温泉を楽しむとともに、近郷から食料などを持ち込んで何日も泊まり込み、農作業の疲れなどを癒やしてきました。また、温泉蒸気を利用し、料理をするということも行われています。

それに加え、近年では、世界の国々との温泉地交流が大変盛んになり、温泉の新たな活用、温泉地の活性化に大きな力を発揮しています。例えば、由布院では、1971年に当時の若手旅館経営者達が、50日間に渡り欧州の観光地と温泉保養地を視察し、それを参考にして、まちづくりに取り組んだ結果、現在、日本を代表する温泉地となりました。

また、日本一の炭酸泉と言われる竹田市長湯温泉では、同じ炭酸泉を有するドイツ・バートクロツインゲン市との交流を30年近く続けています。

ここ別府温泉でも英国・バース市や中国・烟台市、ニュージーランド・ロトルア市などの温泉地と姉妹都市関係を持ち、文化やスポーツなどの面で交流を推進し、お互いの温泉を自慢しながら、さらに温泉の魅力をお互いに高めていると思います。ラグビーワールドカップ2019で、ニュージーランドチームに別府市を公式キャンプ地として選んでいただきましたが、これも温泉による縁結びだと思っています。

また、別府の温泉泥（ファンゴ）を活用したエステや温泉成分を含んだ化粧品などの開発も、イタリア・アバノ市との技術交流から生まれたものです。

温泉地の交流により、観光や医療・健康、さらにはエネルギーなど多面的な分野での活用について情報を持ち寄り、交換し、発信していくことが大切です。そして、世界の人々に温泉の魅力をPRし、理解していただき、利用していただきたいと思います。将来はさらに、各国の温泉地にお客様が増えるようになれば良いと思います。

今回のサミットはそのようなことを期待しながら開催させていただきました。3つの分科会で大いに議論し、皆様方に実際にエクスカッションで見えていただき、交流を深めていただきたいと考えています。

重ねて、皆さま方のご来県を歓迎申し上げ、活発な議論が行われることを期待しまして、ご挨拶といたします。

## 来賓挨拶



環境大臣 中川 雅治 氏

世界温泉地サミットが盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

国連世界観光機構アフィリエイトメンバー部門の前部門長であるヨランダ・ペルドモさんをはじめ、様々な国から多くの方々にお越しいただきました。皆様のお来日を心から歓迎するとともに、主催者である世界温泉地サミット実行委員会の皆様のご尽力に心から敬意を表します。

大分県はご承知のとおり、豊富で多様な温泉が多いことから、まさに「おんせん県」と呼ぶに相応しく、サミットの第1回開催地として長く歴史に名を残すことになると思います。その企画から開催まで中心となり取り組まれた広瀬大分県知事の熱意に、改めて深い敬意を表します。

本日お集まりの皆様の中には、温泉が嫌いな方はいないと思います。もちろん私も温泉が大好きです。日本では、人々の暮らしに温泉が根付いており、それぞれの温泉地で独自の文化が育まれてきました。外国からの観光客の皆様にも昔から人気が高い温泉ですが、最近では温泉に浸かるだけでなく、温泉地ならではの文化や温泉街の風景・風情、裸の付き合いを楽しむ方もいるようです。日本を代表してこの場をお借りして、御礼を申し上げます。

この後、ヨランダさんが行う基調講演の題名は「サステナブル・ツーリズムと世界の温泉地の更なる発展可能性」ですが、独自の文化が育まれてきた温泉地等を活用して観光立国を目指す私たちにとっても非常に興味深く、私自身、楽しみにしています。その他、「医療・健康・美容」「エネルギー」といったテーマについても議論されると聞いています。

このように温泉に関わる数々のテーマを見ると、温泉地は、超高齢化社会における健康寿命の延伸や温泉熱を活用した温暖化対策など、日本や世界が今まさに直面する課題解決に貢献できるのではないかと期待しています。

環境省としても、温泉法の適切な運用を通じ、温泉資源の持続的な利用や温泉の安全な利用に取り組む他、温泉地の活性化にも取り組んでまいります。本日お集まりの温泉をよくご存じの皆様のご協力を、よろしくお願い申し上げます。

最後に、今回のサミットへの参加が皆様にとって有意義な時間となることを祈念し、私のお祝いの言葉といたします。



## 海外参加国紹介スピーチ（16カ国17地域代表）

※国連方式による国名アルファベット表記順



### 中華人民共和国 <sup>かんねい</sup> 咸寧市

中国共産党咸寧市委員会書記  
咸寧市人民代表大会常務委員会主任 丁 小強 氏

咸寧市は中国で「温泉の郷」と呼ばれるほど温泉資源が豊かであり、約1,400年前の唐の時代から温泉地として知られています。また、三国志「赤壁の戦い」の舞台となった有名観光地を擁しています。

観光は国民の生活レベルを上げる重要な産業と認識しており、温泉資源を観光に活用している日本の事例を大いに学びたいと思っています。今回のサミットを契機に、大分県との交流・協力を深め、WIN-WINの関係が構築できることを期待しています。



### 中華人民共和国 <sup>えんたい</sup> 烟台市

烟台市牟平区龍泉鎮政府 書記 呂 孝良 氏

烟台市は地熱資源に恵まれ、多くの温泉がありますが、特に、湧出量が多く水温も高い牟平区の龍泉温泉が最も有名です。加えて、国内一の金の産地でもあり、習近平国家主席が提唱する「一帯一路構想」の重要地域とされています。

今回のサミットの開催地である大分県別府市とは、33年前の1985年に友好都市を締結しました。今後も、このような機会を通じて両都市の交流を進めていきたいと考えています。



### チェコ共和国 ホドニン市

ホドニン市長 ミラン・ルーチュカ 氏

ホドニン市には、国内で最も新しい温泉施設の一つである「ホドニン・スパ」があり、温泉治療やリハビリ、健康増進のためのサービスを提供しています。

「ホドニン・スパ」の一番の特徴はその泉質であり、ヨウ素含有量はヨーロッパ随一と言われています。また、自然環境や気候にも恵まれた歴史的な美しい街並みをウォーキングするなど、リラクゼーションにも最適な地でもあります。







## フランス共和国 ヴィシー

カンパニー・ド・ヴィシーCEO ジェローム・フリポ 氏

ヴィシーは、フランス国内のみならず、ヨーロッパにおいても有名な温泉地です。温泉は近接するオーベルニュ火山を源としており、湧き出す自然の炭酸水は、入浴だけでなく飲用にも適しているほか、化粧品やサプリメントにも利用されています。

温泉地としての起源は18世紀中期まで遡ります。約100年前にも、年間約30万人が夏の避暑地・療養地として当地を訪れていました。現在も、健康増進（ウエルネス）や社交の場として人気の地であり、国内外から多くの方が訪問・滞在しています。

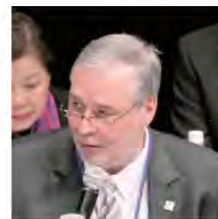


## ドイツ連邦共和国 バートクロツィンゲン

バートクロツィンゲン市・クア&スパ・ヴィータクラシカ副館長 マークス・マッツ 氏

バートクロツィンゲン市は、大分県竹田市と1989年からの30年間に渡って、姉妹友好都市交流を続けています。そうした交流の経緯もあり、大分県で開催されるサミットへ参加できたことを誠に光栄に思っています。

竹田市とは、温泉による文化交流に加え経済交流も継続しており、現在もバートクロツィンゲン産のワインを愉しんでいただいていることを嬉しく思っています。本サミットにおいて、皆さまと共に、意義深い時間を過ごせることを期待しています。



## ハンガリー ブダペスト

ハンガリー政府観光局 日本代表 勝田 基嗣 氏

ハンガリーは、ヨーロッパの中央部に位置する「温泉大国」であり、国内には約350の温泉施設があります。今回のサミットのため、ハンガリー大使館において、「知られざる温泉大国 ハンガリー」という小冊子を作成したのでぜひご覧ください。

ハンガリーの温泉の歴史は古く、2,000年前の古代ローマ時代の温泉施設の遺跡、16世紀のオスマン・トルコ統治時代に根付いたハمام（蒸気浴）、19～20世紀のアルヌーボー建築の温泉施設、近年のスパ・ウエルネスのための施設などがあります。ぜひハンガリーにお越しいただき、多彩な温泉文化を体験していただければと思います。



## アイスランド共和国 グリンダヴィーク

ブルーラグーン・アイスランド研究開発担当役員  
アーサ・ブリンヨルフスドッティル 氏

アイスランドは、ヨーロッパの島国であり、その火山活動により多数の温泉があります。特に、グリンダヴィークにほど近いブルーラグーンは温泉の規模と青い色彩で世界的に有名な観光地となっています。

ブルーラグーンは、隣接する地熱発電所の熱排水を利用した世界最大級の温泉であり、地下熱という資源をいかに維持していくかが、これからの私たちの関心事となっています。



## イタリア共和国 アバノ市

アバノ・モンテグロットホテル協会元会長 マッシモ・サビオン 氏

アバノと隣接するモンテグロットから成るアバノ・モンテグロット温泉は、イタリアだけでなく、ヨーロッパにおいてもその療養地として重要な地域として認識されています。

今回のサミットでは、世界各国の温泉地のリーダーの皆様とその経験や知見を分かち合えることを大変嬉しく思います。自然の恵みである温泉が、人々の健康や幸福にもたらす意義を共有したいと考えています。







## ヨルダン・ハシェミット王国 マイン

マイン・ホットスプリング&スパ総支配人 ジョージ・シオティ 氏

マイン温泉は、歴史的・宗教的にも重要な地域に位置しており、世界的に有名な観光地である死海に近接しています。2015年から現在に至るまで、世界最高級のスパとしての評価もいただいています。

古来より病を癒やす効能がある温泉と言われており、黒色の高い山々の美しいパノラマ、そこから流れ落ちる温泉風景などもマイン温泉の魅力の一つとなっています。



## モンゴル国 バヤンホンゴル県

バヤンホンゴル県国際関係・観光部門長 バヤルマグナイ・ソヴド 氏

バヤンホンゴル県は、モンゴルと聞いてイメージされる大草原や遊牧風景が広がる国を代表する観光地です。また、国内では自然に湧出する温泉があることで有名です。

数ある温泉地のなかでも、様々な病気を癒やす効能があると言われていた「シャルガルジュート温泉」の人气が最も高く、毎年1万人以上の人々が療養のため当地を訪れています。



## ニュージーランド タウポ市

GNSサイエンス地熱科学部長 グレグ・ビグナル 氏

ニュージーランドは火山国であり多くの地熱地帯が分布しているが、その中でもタウポ市は「ニュージーランドの心臓部」と呼ばれるほど地熱が豊富な地域です。本市から約30キロに首都のロトルア市が位置していますが、別府市とは1987年から31年に渡って姉妹都市交流を続けています。ロトルア市からは、「別府市の皆様によるしく」と言付けております。

再生エネルギーへの理解と需要が高まる中、地熱への関心も高まっています。また、先住民のマオリ族の人々も、日本人と同じ様に温泉資源を尊び、独自の温泉文化を築いて温泉を楽しんできました。



## 大韓民国 釜山広域市

釜山広域市健康体育局長 金 光會 氏

釜山広域市は、韓国第二の都市であり、大都会でありながら山や海などの美しい自然環境にも恵まれている国際的な観光都市として発展してきました。近年では、映画やK-POPなどのコンテンツ関連産業の中心地にもなっています。

本市には、国内で最も古いとされる「東萊（トンネ）温泉」があり、白い鶴が湯に浸かり怪我を癒やして飛び立ったという「白鶴伝説」が残っています。現在は、大型のスパや露天足湯が整備され、国内外から多くの観光客が訪れています。



## スペイン王国 マドリード

前国連世界観光機関（UNWTO）

アフィリエイトメンバー部門長 ヨランダ・ペルドモ 氏

スペインにとって観光は国の基幹産業でもあり、2017年には約8,200万人の観光客が訪れ（世界第3位）、旅行業からの収益は約680億ドル（世界第2位）にも上ります。もちろん温泉もあり、ローマ時代に起源をさかのぼるほど古い歴史を持っています。

ガストロノミーをはじめ、ワイン、カルチャー、文化遺産など様々な分野で観光振興の戦略を策定・実行すると同時に、観光客の多さから街の混雑や歴史的建造物の劣化が課題となっていることから、そのための戦略も策定し実施しています。







## タイ王国 チェンマイ県

サンカムペーン温泉 マネージャー サラペー・シラ 氏

チェンマイ県は山々に囲まれた街並みや美しい寺院など、独自の文化と風景で世界的にも有名な観光地です。温泉地も数多くありますが、特にチェンマイ中心部から北東へ36キロに位置するサンカムペーン温泉が観光客に人気です。

また、サンカムペーン温泉では、社会福祉基金を設け、地域の貧しい人々も温泉を楽しめる様にしています。観光客や地域の人々にさらに楽しんでいただくリゾート地を築くため、本サミットを通じてネットワークや温泉地づくりのノウハウを得ることを期待しています。



## 英国 バース市

バース市観光局長 デーヴィッド・ジェームズ 氏

バース市は、首都ロンドンから西に約1時間の場所に位置し、市街地がユネスコの世界遺産に登録されるなど、美しい街並みと共に国内唯一の温泉地として人気を博し、国内外から年間約600万人の観光客が訪れています。

市内ローマ浴場博物館では、古代ローマの人々やケルト人も温泉を利用していた様子が分かります。また、現在は流行のファッションや食を楽しめる店舗が軒を連ねるとともに、バース市民が誇るラグビークラブの試合が市中心部のスタジアムで観戦可能です。



## アメリカ合衆国 アーカンソー州 ホットスプリングス

クアポー・バス・アンド・スパ共同代表

アンソニー・テイラー 氏

ロバート・ケンプケス 氏

ホットスプリングスは、20世紀初頭から温泉地として栄えており、メジャーリーグのキャンプ地として活用もされてきました。しかし、米国人の余暇の過ごし方が変わるとともに療養地としての温泉の良さが忘れられ、一時は地域が著しく衰退した時期がありました。

近年、改めて温泉の有するリラックス効果や健康増進への効能が再注目されてきたことから、2007年にホットスプリングス国立公園内にバスハウス（健康入浴施設）を再オープンしました。昨年は約300万人がこの地を訪問し、温泉や豊かな自然を楽しんでいただきました。



## ベトナム社会主義共和国 トゥエンクワン省

ベトナム共産党中央委員会メンバー

トゥエンクワン省共産党書記 チャウ・バン・ラム 氏

トゥエンクワン省は、首都ハノイから北西へ約140キロに位置し、美しい山々や湖などに恵まれ独自の文化が花開いた潜在力の高い地域です。温泉地としては、「ミーラム温泉」が特に有名で、入浴のほか飲用による療養が盛んで、多数の人々に愛されています。

今回のサミットでは、温泉地の発展、特に温泉が持つ治癒力やエネルギー利用の可能性について意見を交わし合うことを楽しみにしています。日本一の温泉湧出量を誇るここ大分県で開催されることは素晴らしいことであり、ホスピタリティにも感激しています。





# 「サステイナブル・ツーリズムと 世界の温泉地の更なる発展可能性」



## ヨランダ・ペルドモ 氏

前国連世界観光機関（UNWTO）アフィリエイトメンバー部門長

バリアメリカ大学国際経済学部卒業。官民セクターでの経験があり、元スペインカナリア諸島観光局の副代表。UNWTOでは、アフィリエイトメンバー部門長として、民間メンバー（世界約600団体）を束ね、様々なツーリズムの推奨、連携、地域展開を行った。現在はスペイン観光局と国立公共政策院が合同設置した観光・公共政策修士プログラムの教授を務める。

サステイナブル・ツーリズムについて、まずはヨランダ・ペルドモ氏が観光地で取り組んだ2つの事例をご紹介します。続いて、コトラやポーターといった経営学者が記した示唆に富む言葉や、ウェルネスの世界的トレンドについてのレポートなどに言及しながら、これからのツーリズムにおいて参考となるポイントをお話いただき、会議の方向性に数多くのヒントをいただきました。

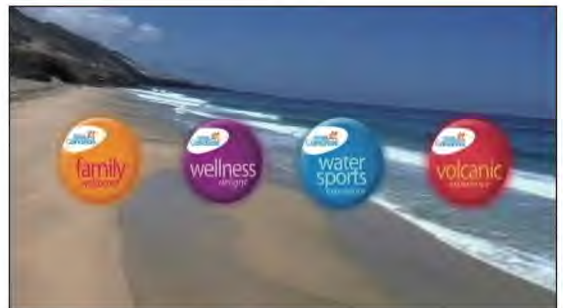
## 講演要約

### スペイン カナリア諸島で実施したプロモーションの取組（2007-2010）

カナリア諸島には、チュニジア、モロッコといった北アフリカの国々、トルコなどの競合国があり、コストや施設の新しさではカナリア諸島を上回るくらい環境であった。我々は観光の要素を「ウェルネス」「ヴォルカニック（火山体験）」「ファミリー」「ウォータースポーツ」の4つにセグメント化し、異なる要素を組み合わせると一つの観光戦略とした。

8年前に実施したこの取組で感じたことは、地域のすべてのステークホルダーを一つの調和した計画に取り込むのがいかに大変かということである。特に小さな地域では、人々は競合しており、一緒に働くことや、情報を共有することを嫌がったりする。政党の違いもこの問題をややこしくする。

UNWTOで働き出したとき、私は自身がカナリア諸島で直面したこうした問題を、官民協同でもっと簡単に乗り越えられるツールができないか考えた。そして、UNWTOのプロトタイプ法を考案した。2012年以降、いくつかのプロトタイプや先行プロジェクトを世界中で実施し、考えが全く異なった人々が一緒に働くためのビジネスモデルを作り上げた。



### ウルグアイ プンタ・デル・エステでUNWTOが実施したプロトタイプ事例（2014）

続いて挙げる例がUNWTOプロトタイプの事例である。プンタ・デル・エステはとくにアルゼンチン人やブラジル人にとっての高級リゾート地であり、ブランディング面では大変成功している。しかし、観光客がいるのは夏の数カ月間だけで、それ以外の期間、別荘は閉じられ、宿泊施設も見つけるのは難しい。そこで、どうやったらプンタ・デル・エステの季節の偏りを克服できるかが課題であった。

私はビジネスマン、レストランやホテルのオーナーたち





などと話したが、全員が同じことを口にした。それはこの地域の持つ特別なエネルギーのことで、そのエネルギーによりウェルビーイング（幸福）を感じられる、というものだった。そこで我々は、エネルギーを考  
えの中心に置き、すべてが人々のウェルビーイングのために企画されているような観光商品をつくることに  
した。自然のエネルギーは季節を問わず感じる事が出来るので、冬でも風や海のエネルギーを感じるため  
に海岸へ行く、といったように、観光客は1年をとおしてさまざまな事が出来るのである。

このプロトタイプをとおして、ツーリズムに人々の精神性がいかに重要か見て取れる。観光客はただ単に  
その場所を訪れるのではなく、その土地の一部となり、つながりを感じたいのである。

### 国連「持続可能な開発のための2030アジェンダ」17の目標

国連の持続可能な開発のための目標も、ツーリズムにおいて考慮しなければいけない問題である。「貧  
困をなくそう」「飢餓をなくそう」「健康とウェルビーイング」といった目標が挙げられている。2017年に  
Business and Sustainable Development Commissionより発表された報告書では、こうした世界的目標を達  
成することで、少なくとも12兆USドルの経済機会がもたらされるということが検証されている。正しいか  
らというだけでなく、ビジネスの機会をもたらし、競合より優位に立てるということもこれらの目標を達成  
する理由になるのである。

目標に取り組むことは、素晴らしいマーケティング・ツールにもなる。なぜなら、顧客に対し、自分たち  
がこの世界目標の達成に貢献している観光地であることを示すことができるからである。



### 温泉ツーリズムの戦略をつくる際、考慮すべきグローバル・トレンド

これから考えるべきグローバル・トレンドについても言及したい。一つは**平均余命**。ウェルビーイング産  
業において、これは非常にインパクトのあることである。健康に歳をとろうとするベビーブーマーたちが、  
これからマーケットに入ってきて、たくさんのお金を使うことになる。そして**精神性、目的意識**、といった  
こともあわせて考えていかなければならない。

コトラーは、その著書「マーケティング3.0」の中で、イノベーションの新たな源泉としてのコラボレーシ  
ョンの重要性や、クリエイティブな思考を持つ「右脳人間」がその表現力により社会に与える影響について言及  
している。右脳人間（専門家、科学者、教授、作家といったクリエイティブな人々）はその消費パターンにお  
いても、前述したような持続可能な開発のための目標を意識している会社を選び、ソーシャルメディアで発信  
することにより社会に影響を与える事が出来るのである。

ラジェンドラ・シソーディアは彼の著書「Firms of Endearment」の中で、フランス革命やアメリカ合衆  
国の独立宣言などが起きた18世紀はエンパワーメントの時代、産業革命の起こった19世紀は知の時代、それ

らを経て我々は現在、超越の時代を生きている、ということを述べている。なぜなら多くの世界で、歴史上初めて、40歳以上の人々が大多数になり、彼らが何かする際は普通ではなくもっと有意義な行動をとろうとするからである。目的意識を持つ「愛される会社」は、こうした人々から信頼され、成功する。

こうした考えをもって見てみれば、ウエルネス・ツーリズム、スパ産業、フィットネス、健康食といった分野が含まれるウエルネス産業は、非常に大きなポテンシャルを持つマーケットである。

## マインドフル・ツーリズム

Gottlieb Duttweiler Institute と Global Wellness Institute によって起草された「ウエルネス2030」と呼ばれる報告書の中では、ウエルネスやウエルビーイング・ツーリズムの将来に影響すると思われるトレンドとして、テクノロジー、バイオハッキングなどを挙げている。スピリチュアルな分野と思われがちなウエルネス産業にもテクノロジーは大きく関わってきて、こうした変化に対応できる企業が生き残っていく。



顧客を意識したマインドフル・ツーリズムといったアイデアは、心と体を一体的に考えるウエルビーイングにつながる。健康とウエルビーイングとツーリズムを幸福の重要条件として結び付け、地球幸福度指数、世界幸福度ランキングといったさまざまな尺度で測られる幸福度の指標にも注視していくべきである。

## 地域的イニシアチブの発展

日本の温泉を世界へ広げていくには、人々が価値を認める日本独自のものに取り組まなくてはいけない。スパの建設、トリートメントの施術といったことも重要であるが、幸福感やスピリチュアリティを得られる抽象的な価値提案や、テクノロジーによりこうした要求を満たすことも新たな焦点とするべきである。こうした課題には、すべてのレベルで官民協同して動くことが必要となってくる。そして国のレベルでは、異なる省、異なる部門間のコラボレーションが必要である。たとえば大分では、農林水産課が観光課と緊密に連携していく、といったことである。

あなた方が世界とコラボレーションしよう、変化を起こし、温泉を特徴的なものにしようと考えているのは、素晴らしいことだ。私は温泉という議題をとおしてウエルビーイングのグローバルな問題に取り組めることにわくわくしており、私を含めここに会している参加者一同は、あなた方といつでも協力したいと考えている。

「意味を提供することがマーケティングにおける未来の価値提案である。」とコトラーは述べている。ここで言う未来とは、もはや現在のことである。素晴らしいことにあなた方は、そこに至る道の途中にあるのだ。

### (講演の中で引用された参考文献)

- Philip Kotler, Hermawan Kartajaya, and Iwan Setiawan. *Marketing 3.0 : From Products to Customers to the Human Spirit*, John Wiley & Sons, 2010.
- Rajendra Sisodia, Jagdish N. Sheth, and David Wolfe. *Firms of Endearment : How World-Class Companies Profit from Passion and Purpose*, Pearson Education, 2014.
- John Mackey and Rajendra Sisodia. *Conscious Capitalism : Liberating the Heroic Spirit of Business*, Harvard Business School Publishing Corporation, 2014.
- Gottlieb Duttweiler Institute and Global Wellness Institute. *Wellness 2030 : The New Techniques of Happiness*, 2018.



## 事例発表

### (1) 観光分野

## 「フランスにおける温泉資源を活用した観光客誘致」



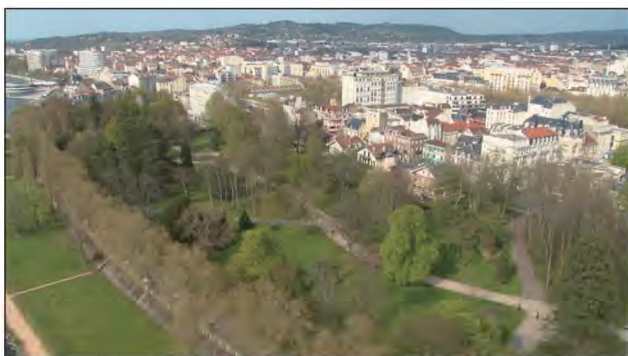
ジェローム・フリポ 氏

【フランス】カンパニー・ド・ヴィシー CEO

HEC経営大学院卒、法学修士。1978年ゼスチョン・プリベ銀行に入行。その後、飲料業界の幹部職を歴任後、2005年にカンパニー・ド・ヴィシー社を買収。以来、温泉治療と健康を組み合わせた“グローバルヘルス”を提唱、ヴィシーよりそのコンセプトを発信している。また、温泉イノベーションの地域団体“Innovetherm”の創始者・会長でもある。

温泉観光地として名高いフランスのヴィシー市における温泉資源の活用について、具体的な事例を発表していただきました。

### 事例発表要約



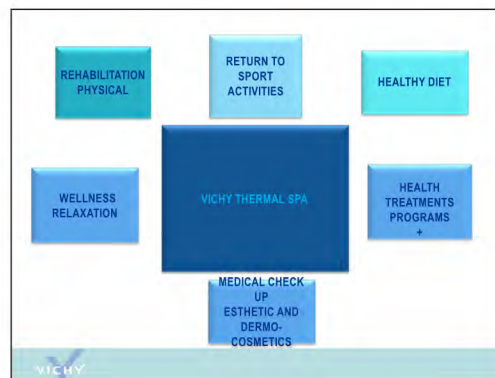
- フランス中央に位置するヴィシーは、9つの温泉を有し、山や湖に囲まれた自然豊かなまち。
- アールデコ、アールヌーボーの建造物が並んだ美しい街並も有名である。



- 活気あるショッピングタウン、その他にもオペラ劇場、ゴルフコース、カジノ、競技場などの施設がある。
- スパだけでなく、文化・スポーツも盛んで、4～10月のピークシーズンにはさまざまなスポーツイベントが実施されている。



- ハイランクのスパホテル、ヴィシー・セレストアン。
- ヴィシーのブランドでキャンディや化粧品などの商品を販売している。
- メタボリック症候群や糖尿病の患者等に対しては、食事療法も行っている。



- 滞在者一人一人のセラピストになることが、ヴィシーのスパホテルの企業理念である。
- スパとウェルネスの組み合わせにより、予防医療のサービスを提供。健康・美容を保つためだけでなく、病気を抱えた人がより良く生きるためにスパを利用したり、重篤な患者がリハビリスパを利用したりすることもでき、さまざまな認証を受けている。



## (2) 医療・健康・美容分野

### 「イタリアにおける温泉療養の現状と

### 健康と美を追求した温泉保養への新たな展開」



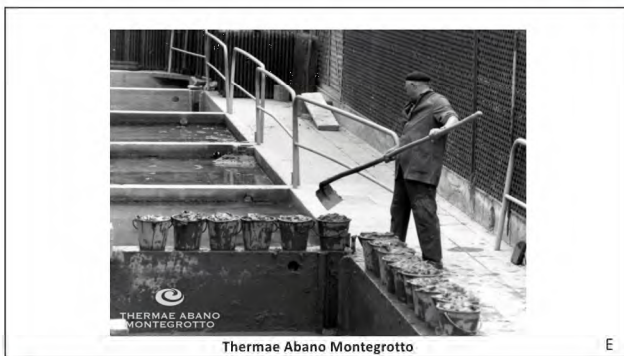
マッシモ・サビオン 氏

【イタリア】アバノ・モンテグロットホテル協会元会長

ベニス市カ・フォスカリ大学で経営学の学位を取得。ホテルサービス、温泉医療において40年以上の経験を持つ。5つ星ホテル・プレジデント・テルメ総支配人としてホテル運営を行う傍ら、アバノ市の副市長をはじめ、様々な役職を歴任。アバノ・モンテグロットホテル協会の元会長として温泉を活用した健康づくりに取り組んでいる。

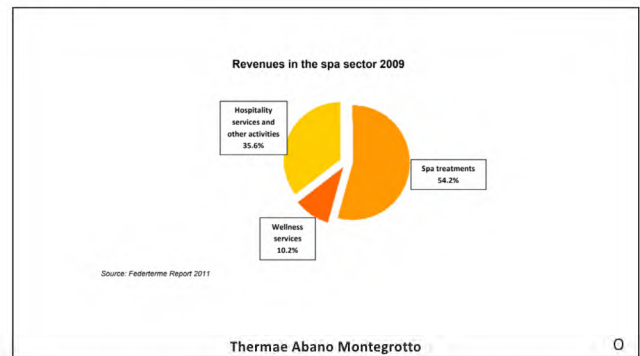
古代よりその豊富な温泉資源が有名なイタリアのアバノ市の取組について、具体的な事例を発表していただきました。

#### 事例発表要約



Thermae Abano Montegrotto

E



Thermae Abano Montegrotto

O

- アバノ・モンテグロットには120のホテル群があり、それぞれが単に温泉というだけでなく、泥のセラピーや温泉水を使った水中療法を施すイタリアの医療機関でもある。
- 火山性の土壌においてできた粘土を時間をかけて醸成し、治療に使用している。

- スパ施設の約55%は治療による収益。そのほかの収益は、宿泊等のサービスが約35%、ウエルネスが約10%。
- ホテルは宿泊だけで成り立っているわけではなく、治療による収益が大きい。



Thermae Abano Montegrotto

R

- 「スパ」という言葉はさまざまに定義できるが、飲料水としての使用、保養施設・治療施設といったものに加え、ウエルネスのためやツーリズムとしての需要が高まっている。
- こうしたあらゆるサービスが求められる時代の流れは化粧品などにも波及し、温泉の水や泥を使用した製品が生産されている。



Thermae Abano Montegrotto

Thermae Abano Montegrotto

Z

- アバノ・モンテグロットはベローナにも近く、丘陵地帯には素晴らしいブドウ畑やワイナリーがあり、滞在中、食事や観光も楽しむことができる。
- 医学的にも効用が認められた温泉のあるホテルに滞在できることは、その土地の食・観光にさらに付加価値を与えることとなる。



### (3) エネルギー分野

## 「エネルギーと観光：アイスランド・ブルーラグーンにおける地熱発電と地熱資源の多様な利用」



アーサ・ブリンヨルフスドッティル 氏

【アイスランド】ブルーラグーン・アイスランド研究開発担当役員

アイスランド大学で薬学の修士号を取得。地熱海水の治癒力の研究を行うブルーラグーン株式会社に入社。以後、ブルーラグーンの地熱海洋水とその成分についての研究に長年従事し、その後さまざまなスキンケア商品を開発。ブルーラグーン株式会社をアイスランドのヘルスツーリズムにおける代表的な会社に押し上げたマネージメントにおけるキーパーソンである。

日本と同じく活火山の多いアイスランドでは、地熱エネルギーが多く活用されています。近くの地熱発電所からの地熱資源を利用した広大な温泉施設、ブルーラグーンでの地熱エネルギーの多様な利用について、具体的な事例を発表していただきました。

### 事例発表要約



- 雑誌「ナショナルジオグラフィック」の中で、ワンダー・オブ・ザ・ワールド（世界の不思議）として取り上げられたブルーラグーン。
- ラグーンの地熱海水は、地下2000メートルの火山帯水層から、藻類、シリカ、ミネラルが豊富な地表へと流出する。
- 研究によると、ラグーンの特有の成分には治癒力があり、とりわけ乾癬に効果がある。



- ラグーンが青いのはシリカによるもので、それはラグーンの特徴的な成分である。シリカの沈殿物は、ブルーラグーンの象徴的な白い泥マスクとして、すべてのお客様が使用できる。
- ブルーラグーンは、ヘルスツーリズムとスキンケアで先端を走る、ベンチャー企業であり、世界規模のデスティネーションかつ独自ブランドとなっている。



- 会社の理念は、地域地熱資源を持続可能な方法で活用することである。
- 光バイリアクターシステムでは、藻類の培養に地熱発電所から排出されるCO<sub>2</sub>を使用。地熱ガスを養分として藻類を培養している。こうして、廃棄される資源を有用なものに変え、発電所の二酸化炭素排出量を削減している。



- 今現在は、新しいラグジュアリーホテル、ザ・リトリート・ブルーラグーン・アイスランドへの投資が行われている。
- ブルーラグーンは、今や世界的に知られ、皆が行きたいと思うようなデスティネーションとなった。またお客様に対し、忘れられない体験を提供する。



**テーマ:「ONSENツーリズムの新たな可能性」**

コーディネーター: 久保田 美穂子 氏 (亜細亜大学経営学部ホスピタリティ・マネジメント学科准教授)  
 パネリスト: 桑野 和泉 氏 (一般社団法人由布院温泉観光協会会長)  
 涌井 史郎<雅之> 氏 (東京都市大学特別教授/一般社団法人ONSEN・ガストロノミーツーリズム推進機構会長)  
 デーヴィッド・ジェームズ 氏 ([イギリス] パース市観光局長)  
 ジェローム・フリボ 氏 ([フランス] カンパニー・ド・ヴィシーCEO)  
 ヨランダ・ペルドモ 氏 ([スペイン] 前国連世界観光機関(UNWTO)アフィリエイトメンバー部門長)

**論点**

- ①世界の温泉地に、国内外からの誘客を促進するためには何をすべきか
- ②持続可能な温泉観光をどのようにして実現していくか

**登壇者の発言要旨**



**デーヴィッド・ジェームズ 氏**

- パースはロンドンから1時間半のところにあり、英国で唯一天然温泉が湧出し、街並みは世界遺産に登録されている。
- 元々はローマ人が作った街で、ここにローマ式浴場を作ったのが温泉地としての始まりだが、現在は近代的なスパとなっていて、年間数百万人が訪れている。
- 娯楽や健康のためにパースに来るといふ方がおり、ジョージアン様式の建物のスタイリッシュな特徴をマーケティングにフルに活用して、観光客を引き付けたいと考えている。そして、温泉に浸かって、楽しくゆったりとした気分になって人生観まで変えるということを経験してもらいたい。このウェルビーイングは非常に重要なことで、できる限り魅力をアピールしたいと思っている。
- 2012年のロンドン五輪の際、世界のプレスが多く英国に来たが、ロンドン以外の情報も求めてき

て、私たちはそのような記者に深く関わった。2020年の東京五輪の際は東京から地方に出る仕組みを作って、素晴らしい地域のストーリーがあることを世界のプレスに伝えてほしい。

- 各々の温泉地は独自の価値を持っており、それぞれを差別化し、国内外へ情報発信することが大事。



**ジェローム・フリボ 氏**

- 国内の訪問者の多くが社会保障制度を活用して来ている。ヴィシーには3週間程度の長期滞在する方が3割いるが、中国の方などは3日間など短い期間で訪れている。この方々は健康というよりはウエルネス目的。インバウンドは10%くらいしかいないが、ハイエンドのマーケットでは3分の1がインバウンド客。
- 日本は高齢化社会でそれが脅威だという話があったが、シニアにとっては温泉で運動することはと





でも重要。シニア向けのプログラムなどを開発すれば、同時にチャンスになる。



### 桑野 和泉氏

- 由布院温泉には年間約380万人の観光客を迎えており、街自体は歩けるくらいの小さなまちだが、このスケール感を大事にしている。私たち自らが住んで皆さまをお迎えしているので、地域との共存ということが何よりも大事と考えている。
- 同時に、湯布院は行政がこの30年間で様々な独自の条例を制定している。地域には特性があると思っており、サステナブルでいくためには、地域の独自の条例が湯布院の今につながっていると思う。
- 私たちは地域の環境や温泉があつてこそ、人をお迎えできているので、サステナブルということを絶えず私たち観光関係者は頭に入れ、戦略を持ち、実践していきたい。
- 一方で海外からの観光客に私たちが本来伝えたい湯布院が伝わっていない、マーケティングも含めてまだまだ未熟であるという課題がある。



### 涌井 史郎<雅之>氏

- 人口減少というものと少子高齢化が旅行の市場を非常に衰退させる大きな現実があることに目を留めるべき。また、生産年齢人口が減っていき、ものづくりの担い手がいなくなって、経済がさらに収縮。さらに地方の人口が減り、地方が衰退してしまう危険性があり、しっかりと対策を取らないといけない。
- 多様かつグローバルな世の中で、温泉は自分の体と心を洗い直すこと(retreatment)ができる大きな存在。

- 日本の自然公園、特に国立公園には極めて高い価値がある。現在、国立公園満喫プロジェクトを立ち上げ、国立公園のブランドを世界に向けて発信しようとしている。
- SDGsにもあるように、誰もを取り残されない世界というものを2030年に作るならば、我々先進国はむしろ成長だけに舵を切るのではなく、自分がどれだけハッピーであるかという成熟した社会をつくることに、もう少し熱心になることが大事。
- 日本の温泉文化はまさにretreatmentで、おいしいお酒を飲んで、おいしい食べ物を食べて、温泉に浸かってリラックスする、これがすごく大事だと。こういう心のゆとりがあると、実は全体が健康になることに繋がる。
- その土地の空気を吸い、その土地の食べ物を食べ、その土地でできたお酒を飲み、その土地の温泉に入り、そして適度に歩くというONSEN・ガストロノミー・ツーリズムのようなことが非常に重要なムーブメントになるのではないかと考えている。これは特定の旅行業者や宿泊施設がもうかるわけではなく、地域全体が身の丈に応じたおもてなしを一生懸命することによって、地域が一体化することにおいても大きな意味がある。



### ヨランダ・ペルドモ氏

- 今はいろいろなところからの人がそれぞれの方法を持ち、それを持ち寄って一緒になって次を考えていく時代である。適切な人たちとパートナーシップを組んで一緒にやる(コラボレーション)ということがまさに重要。
- 食は大事なコンテンツ。ただ、単に食べるだけで無く、その土地の人たちと交流できるような場を作るということも大事。

### 分科会総括 久保田 美穂子氏

議論は多岐にわたったが、これからの温泉地が探るべきあり方、イノベーションの起こし方について、ポイントは次の5点にまとめられる。

- 新しい時代に応じたコラボレーションがいかに重要か。また、そのことに対してどれほど真剣に粘り強く取り組めるか。
- 課題はチャンスでもある。そのチャンスを生かす本気度が大事。
- 地域独自の価値をいかに認識し、それを強く発信すること。
- グローバルであるためのローカリティ。地域らしさが確立してこそ初めて世界と連携できる。
- 国は違えど温泉地には本質的な幸福、心の癒やしを追求するという共通点があることを再認識し、地球的視野の発想を持つ。





テーマ:「健康寿命延伸と癒やしのための温泉活用の展望」  
～クアからウエルネスの時代へ～

コーディネーター: 合田 純人 氏 (特定非営利活動法人健康と温泉フォーラム常任理事)  
 パネリスト: 齊藤 雅樹 氏 (東海大学海洋学部教授)  
 早坂 信哉 氏 (一般財団法人日本健康開発財団温泉医科学研究所長/東京都市大学人間科学部教授)  
 マークス・マッツ 氏 (【ドイツ】 パートクロツィンゲン市・クア&スパ・ヴィータクラシカ副館長)  
 マッシモ・サビオン 氏 (【イタリア】 アバノ・モンテグロットホテル協会元会長)  
 ヤスコ・ジュアンド 氏 (【フランス】一般社団法人SPALOHAS倶楽部代表理事/SPAツーリズムアドバイザー)

論点

- ① (医療) 身体的・精神的疾患に対する温泉の効能について
- ② (健康) 健康寿命延伸に向けた各国の温泉資源の新たな活用方法とは何か
- ③ (美容) 温泉の泉質や成分等を美容分野にどのように応用するか

登壇者の発言要旨



マークス・マッツ 氏

- 1960～1970年代まで、ドイツにはオープンスパ療法があり、部屋代は利用者負担であるが、医者による治療費は健康保険で賄われていた。
- 1970年代から1980年代にかけて、リハビリテーション

- 1996年に医療保険の改革があり、適用範囲が制限されたため、自費によるウエルネスへの利用を求めた人が増えた。
- 週末や長期休暇の際に、リラクゼーションや余暇を楽しむための温泉利用が増えている。

クリニックが整備され、保養地で整形疾患、心臓疾患、がん、神経痛など様々な治療に効果があるとされた。







**マッシモ・サピオン 氏**

- それぞれの温泉地の伝統や、受け継がれている大切なものは変えることなく、地域性を活かした、あらゆるサービスを検討する必要がある。
- 我々は努力して国の医療保険なども活用できるようにして、治療のための温泉利用の普及をしてきたが、今や治療だけに集中するだけでなく、ウエルネスやガストロノミー、スポーツなど幅広い利用環境を整えることが重要。

- 日本の温泉は、おもてなしの点で最高の位置にある。温泉療法が体に与える様々な影響があるが、精神的にも肉体的にも、おもてなしが重要である。



**ヤスコ・ジュアンド 氏**

- フランスでは、肥満症、うつ病、乳がんの術後の心身ケアなどに温泉療法のエビデンスが認められており、健康保険が適用されている。
- さらに、海水を医学的に活用して健康に役立てるタラソテラピーも定着している。

- 豊後高田市で日本型のタラソテラピー事業に取り組んでおり、もともとある観光・健康資源を活用して日本でもヘルスツーリズムは可能。



**早坂 信哉 氏**

- 日本も1990年代までは、温泉医学研究が各地で行われ、日本各地に温泉の大学病院が存在していたが、現在残っているのはこちら別府にある九州大学病院だけになっている。

- 緩やかな疫学調査、統計学的な調査ということで、全国的な統一の調査票を用いて、症例を集めていきたい。
- これまで各温泉地でそれぞれの研究はあったのだが、なかなか一つの温泉地では多くの研究はできない。全国統一のフォーマットを用いて全国統一の調査を温泉地で行い、2020年度までの3年間で、1万人程度のデータを集めたい。



**斉藤 雅樹 氏**

- 温泉の効果、特に医療の分野では、エビデンスが強調されるが、温泉入浴のサンプルを取るのは難しく、人により入浴の長さや好みの温度、泉質の違いもあり多様性に富んでいる。

- 入浴と共に心拍数や血圧、血中酸素濃度を測ることができるデバイスを用いれば、自動的に多くのデータを収集でき、集めたデータを基に、安全な入浴、快適な入浴をナビゲーションすることができる。
- ソフトエビデンスの収集が、温泉研究の発展に繋がる可能性がある。

**分科会総括**

**合田 純人 氏**

- 各国の温泉療養の在り方について、フランス、イタリア、ドイツの現状を確認し、日本を含め同じ方向を向いているのではないかと考えている。
- 欧州各国では療養型の長期滞在から、社会保障費の削減などもあり10日間や1週間程度のコンパクトケアへと移っている。日本は戦後、療養という文化から1泊2日の観光型が定着しているが、2泊、3泊することで癒やしや健康づくりに繋げていきたいという考えがあり、環境省が「新・湯治」として推進している。
- ヨーロッパと日本の方向性は一見違うように見て取れるが、お互いの見ている先に温泉の将来の在り方があると考え。
- 温泉の与える癒やしや効能・効果というのは、それぞれが同じように感じていて、それは目には見えないスピリチュアルな部分である。また、健康に重要なのは特別な運動ではなく、生きていくための心の持ち方や、生きていく姿勢ではないか。
- 諸外国の方に伝えたいのは、日本は古来から温泉を自然と一体となって、信仰や癒やしの対象としてきており、このスピリチュアルな温泉文化が日本の湯治文化を支えている。
- 地震という災害をもたらすのが火山であり、地球であるが、温泉という恵みを与えていただいているのも事実である。地球の贈り物である温泉文化を後世に繋げていきたい。





テーマ:「温泉の持続可能なエネルギーとしての利活用」

コーディネーター: 安川 香澄 氏 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 再生可能エネルギー研究センター副研究センター長)  
パネリスト: 福田 孝一 氏 (九州電力株式会社エネルギーサービス事業統括本部火力発電本部地熱部長)  
山田 茂登 氏 (富士電機株式会社発電事業本部火力・地熱プラント総合技術部担当部長)  
グレッグ・ビグナル 氏 (【ニュージーランド】 GNSサイエンス地熱科学部長)  
アーサ・プリンヨルフスドッティル 氏 (【アイスランド】 ブルーラグーン・アイスランド 研究開発担当役員)

論点

- ①地熱エネルギーの利活用をどのように図るべきか
- ②温泉地における持続的なエネルギー利活用をどのように進めるべきか

登壇者の発言要旨



福田 孝一 氏

- 大分県九重町にある九州電力の八丁原・大岳発電所では、地熱発電に使った熱水、蒸気をバラヤカスミ草などのハウス栽培、暖房設備に活用している。
- 九州電力では2006年、2015

年、2018年にかけてバイナリー発電方式を採用。さらなる地熱エネルギーの利活用を拡大し、2018年5月、インドネシアでも地熱発電を行っている。

- 温泉地を守るには、定期的なモニタリングや自然を守るための環境アセスメントを決められたとおりやっていくことが大事。ただし、それだけでは不十分で相互理解、コミュニケーション、そしてそれに基づく信頼関係が大切。
- 運転開始以降のコミュニケーションとして、八丁原発電所では、地熱発電について知ってもらうため、年に1度オープンデーというイベントで構内を開放。常設の展示館も設けており、年間を通じ2万2000人の方が来訪。



山田 茂登 氏

- アイスランドやトルコは、世界の地熱発電の設備容量(発電能力)のデータによると、大きく伸びている。幅広く事業展開し、地熱エネルギーの利活用を行っていることが評価できる。

- 地熱発電は、熱だけではなく、色々と事業を広げる可能性がある。
- 地熱は、第1次産業に有益ではないという意見もある。各々の地域で温泉利用以外に、地域に適したエネルギーの利用拡大を検討し、計画できる人が出てくるのが非常に大事。
- 地熱発電が広まることも重要だが、温泉資源の利用機会を広げる、コンサルや企業が出てきて利用拡大につながっていくといい。







**グレッグ・ビグナル 氏**

- ニュージーランドでは、19～20%ぐらいの発電を地熱が担っている。これにより、化石燃料を基にした発電所を閉鎖していく機会が訪れる。中期的には、その地熱発電の将来的な投資、将来

的な拡張を考えていきたい。

- 重要なことは、コミュニティがどのようなことに地熱を使いたいかということ。マオリの人々は自然を所有するのではなく、守りたいという立場を取っている。温泉に関して地熱に関して、所有はしない、守るという信念・心情が大切。
- 発電所のサイズが非常に小さいものであっても、グリーンハウスや酪農工場に供給され、雇用を創出し、利益を生み出している点で、地域の経済開発に大きなプラスになっている。
- 地下から熱水をくみ出すときに自然に補充される補充率とのバランスを取る必要がある。以前ニュージーランドは、そのレートが間違っていたため地球に負荷をかけたことがある。しかし、そのバランスを保つ限り、地下熱資源というものは再生可能エネルギーである。



**アーサ・ブリノルフスドツィル 氏**

- ブルーラダーンでは、温泉やホテル、スキンケアショップやレストランを企業群（リソースパーク）として捉え、発電時の温水を各施設が持続可能な方法で活用するなど様々

な方法で活用している。

- 持続的なエネルギー利活用を進めるにはモニタリングが重要。教育、コミュニケーション、それから互いの信頼関係を構築していくことが持続可能な開発につながる。
- 地域の人たちのクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を向上させるためできる限り天然資源を使ったエネルギー発電に努めている。
- さまざまな産業分野に温泉を通して雇用を創出し、供給していけるということも重要。それぞれの分野でどのような可能性があるか、連携しながら開発を進めていくことが大切。



参加機関の取組パネル展示



参加機関の取組冊子

**分科会総括**

**安川 香澄 氏**

- 「地熱エネルギーの利活用をどのように図るべきか」という論点では、産業面での活用がある。産業面の活用には、地域資源の特性を考え、社会環境も考慮し計画を立てることが重要。
- 「温泉を活用した新たな発電の可能性」については、特に島しょ部や遠隔地では、災害時、送電が断たれることがあるので、小規模でも温泉を活用した発電所は非常に有効。
- 「温泉地における持続的なエネルギー利活用をどのように進めるべきか」という論点では、大規模な地熱発電の開発は温泉への影響がないかという意見が会場から多くあり、温泉地で温泉をうまく利用し、悪影響を与えずエネルギーを別の使い方ができないかと考える観点が必要。
- 「泉源に影響を及ぼさないエネルギー利用の検討」については、モニタリングデータに基づいた効果的な数値モデリングを行って、将来予測を行うことが重要。また、専門家以外にも理解できる技術ガイドラインを作成し、乱開発を避けて管理する体制をつくるための社会環境整備も重要。
- 「自然環境や景観、生活環境との調和」については、地域の賛同を得られるデザインが大切。プラントを隠すだけでなく、環境教育や観光の観点から見せる施設も必要。
- 「地域関係者との合意形成による持続的な発展」については、地元とコミュニケーションを密に取りながら合意形成を行い、多目的利用によって持続的な地域の発展に貢献するような使い方を考えていくことが大切。





# ONSEN サミット宣言

期日/2018年5月26日(土)

場所/ビーコンプラザ フィルハーモニアホール

分科会コーディネーターから3つの分科会での議論の総括が発表され、最後に前国連世界観光機関(UNWTO)アフィリエイトメンバー部門長ヨランダ・ペルドモ氏からサミット宣言が発表されました。サミット宣言には、世界の温泉地のリーダーがサミットで得た知見やネットワーク等を活かし、温泉地の発展に貢献することや、観光や医療・健康・美容、エネルギーの各分野における温泉の活用を進めることに加え、継続的な情報共有や議論の場としてサミットを継続していくことが盛り込まれ、会場の出席者から大きな拍手をもって承認されました。





## 世界温泉地サミット宣言

我々、世界の温泉地のリーダーは、日本国大分県別府市で開催された「世界温泉地サミット」において、主題である『世界の温泉地が拓く地域発展の可能性』について情報を持ち寄り、活発に議論した。今後、世界中の人々が温泉の魅力を理解し、利用していただくことにより、世界の温泉地がさらに発展していくことを期待して、次のことを世界に向けてアピールし、実践することを表明する。

### 1. 世界の温泉地発展への貢献

我々は、地球の恵みである温泉資源について、本サミットを通じて得た世界の温泉文化や温泉資源の活用事例、専門的知見、多様な主体とのネットワークを最大限生かし、温泉に関するデータベースの構築に取り組むとともに、新たな価値の創造と相互交流を図りながら、世界の温泉地の発展に貢献する。

### 2. 温泉と観光振興

観光は、貧困や富の不平等の軽減、文化の保存、無形有形遺産の保護、ジェンダーの平等の促進、そして、環境・社会・経済の発展と持続可能性の向上において、改革の力をもつツールである。

温泉は、観光分野において重要な自然・文化資源である。環境意識の向上を図り、自然の恵みである温泉資源を維持するとともに、地域の特性に応じた差別化によって魅力を高めるなど、これまで以上に誰もが楽しめる温泉観光の実現を目指す。

### 3. 温泉の医療・健康・美容への利用

温泉は、医療・健康・美容分野において非常に有益な資源である。産学官連携による研究を進め、人類共通の財産として、温泉の新たな可能性と魅力を発信しながら、これらの分野への活用を推進する。特に、温泉利用がこれまでのクア（療養）に加え、ウエルネス（健康・美容）へと拡大していることに注目すべきである。

### 4. 温泉のエネルギー利用

温泉は、エネルギー源として、さらなる活用が期待される資源である。エネルギー多様化の時代を迎え、温泉資源の保護・自然環境等との調和等を図りながら、発電や地域冷暖房、農業や水産業と一体となった熱利用など、様々な分野でのエネルギー利用を進めていく。

### 5. 世界温泉地サミットの継続

我々は、以上のような目的を持って、世界の温泉地のリーダーが継続的な情報共有や議論をするため、サミットの開催を継続していく。

以上、ここに宣言する。

2018年5月26日

会議終了後、基調講演者、事例発表者、主催者による記者会見を行いました。

世界温泉地サミット実行委員会会長広瀬勝貞大分県知事よりサミット全体について発言。



#### 広瀬勝貞大分県知事

昨日から始まりました世界温泉地サミットですが、今日は、午前には基調講演と事例発表が行われまして、午後は「観光」「医療・健康・美容」「エネルギー」この3つの分科会で活発な議論が行われました。先ほどこの分科会を踏まえまして、分科会総括が行われました。

そこで、サミット宣言が採択されたところですが、一つはやはり世界中の人々が温泉の魅力を理解し、利用していただいて、そして世界の温泉地が更に発展していくことを期待していくということです。

また、宣言の結びにもあるように、世界の温泉地のリーダーが継続的な情報共有や議論をするため、サミットの開催を継続していくという気持ちを共有できたことは、今回のサミットの成果だと思っています。

今回、様々な人が様々な“温泉”ということを中心に、様々な考え方を披露していただいたことにより、それがまた様々な人の刺激になって、またそれを皆様が持ち帰って、新しい温泉の発展に繋げていくことになるのではないのかなと思っています。サミットの実行委員会会長としての総括的な感想としては、その点が非常に良かったと感心をしているところです。例えば、観光政策にしても温泉は共通の資源だが、それを利用して地域の特性に応じた差別化を図ることによって、お客様を見つける等です。これまでの療養から、むしろ健康や美容等といった“ウエルネス”のほうにお客様の関心が移っていく、そこに答えなければならぬ。そういった新しいことを、皆で共通認識を持つことが出来たのは、非常に良かったと思っています。



(質問)

今回初めて世界温泉地サミットが開催され、その成果をどのように受け止めているか。



#### ヨランダ・ペルドモ氏

このサミットに出席したことは、大変喜ばしいことでした。

<新しい連携方法へ向かってどのように前進するか><日本の元々の地域だけではなく、世界の他の地域ともどのように連携していくか><人間の

温泉に対する新しいニーズをどのように取り入れるか>ということについて考えをまとめる議論は、数多くの会議に出席してきた私にとっても、非常に刺激を受けるものでした。もし皆様がこのイニシアチブを進めるならば、これらの他の観光目的地と連携してグローバルな商品をつくることができます。そして将来的には、違う何かを求めたり、内面的欲求を真に満足させるための幸福や目的意識を求めたりする新しいタイプの旅行者のニーズの多くを満たすことができることでしょう。

こうしたことは、日本の伝統の一部であると思えます。伝統と文化遺産を融合させることには本当にニーズがあると思えますし、それは、商品開発やマーケティング、ガバナンスに関してだけではなく、イノベーションについての実例にもなると思えます。ですから私は、そのことについて、主催の皆様を本当に祝福しなければなりません。今後も、これらのアイデアがさらに幅広く展開されることを期待しています。



#### ジェローム・フリポ氏

私たちは温泉、特に日本の温泉市場について議論し、問題の一部として日本の高齢化や、以前よりも温泉に行く人が多いということを指摘しました。それについて考えるには非常に良い機会になったと思えます。

なぜなら、例えば、フランスのヴィシーについて言いますと、サーマルスパに行く人々は高齢者だからです。温泉は高齢者に非常に適しています。現在のところ、日本の温泉は、家族や子供たち、家族向けビジネスに目を向け過ぎていると思えます。もっと高齢者に目を向けるべきです。彼らには時間がありますし、より長く滞在することができますからです。





### マッシモ・サビオン氏

私がこの非常に素晴らしく立派なサミットで注目したこと、それは官と民が同じ方向に進むところを見るのが、本当にこれが初めてだということです。これは広瀬大分県知事、長野別府市長のおかげで

すし、大分県内の他の市町村長の皆様が出席されているのも拝見しました。このように行政の皆様が出席されることは、私たちにとって非常に重要なことです。なぜなら、どのようなケースでも、温泉の明るい未来に到達するためには、行政機関とホテル・旅館などの民間機関が迅速かつ厳格に連携することが必要だからです。

将来にとって、こうした官民の連携プログラムは非常に重要になります。



### アーサ・ブリンヨルフストツェル氏

このサミットは私の期待を大きく越えるものでした。皆様からの非常にインスピレーションに富んだ発表と、分科会での有意義な議論から、多くのことを学びました。私は、温泉の未来は非常に明るいと

考えています。コミュニティの価値のために、そして、私たちの生活、生活の質を向上させるために、温泉をさらに発展させる機会がたくさんあります。マッシモ・サビオン氏のご発言のとおり、温泉をさらに発展させ、温泉の利用を促進させるために重要な要素の1つは、全ての利害関係者との良好な連携にあると思います。



### 長野恭紘別府市長

まず私どもの別府市で、世界で初めての温泉地サミット開催という素晴らしい試み、挑戦ができたということで、広瀬大分県知事をはじめ、今日お越しをいただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

今回、新たに皆様方から出てきた「サステナブル」＝「持続可能な」という一つの言葉が今後のキーワードになってくると思いました。当然、温泉は有限の資源ですので、いかに持続可能な成長発展を続けることができるのが重要だと思います。そして、観光はもちろんのこと、環境、エネルギー、医療・健康・美容と様々な分野において、これからも持続可能な発展ができるツールとしてのひとつの重要な資源が、この「温泉」であると改めて思いました。

そのためには、環境で人を育てていく、環境の中

でこの温泉という資源を守り、活用していくということが、これから重要なテーマになってくると思いました。そしてなにより、今回多くの温泉に関わる関係者の皆様が、こうして実際に集まり、様々な議論がなされたことが重要なことだと思っています。

別府市は現在、88の国から3,300人以上の留学生がいる、まさに多様性の街です。それと同様に多くの皆様がお集まりをいただいて、お互いに足りない部分を補完したり、今までなかったことを刺激しあうことで、コラボレーションして全く新しい試みが生まれることが、これから出来てくると大きな期待をしています。

今後2回目の開催や、もちろんそれから先もあるのだろうと思っていますので、これからも継続していくということが重要なことだと思っています。

### (質問)

行政として今後こういった取組をしていきたいか。

### 広瀬勝貞大分県知事

本日の世界温泉地サミットでは、温泉をめぐる諸課題を元に、「観光」「医療・健康・美容」「エネルギー」の3つの分野について議論がありました。

そのなかで、色々示唆に富んだお話しがありましたので、そういったものを我々の温泉をめぐる諸施策に活かしていくことが大事だと思います。

例えば、様々なデータを持ち寄り、データベース化をして、これからの温泉の発展に繋げていくというお話しがありました。フランスのヴィシーでは、随分昔から、温泉での効用についてお客様からデータを収集して、それが保険の適用まで結びついた事例をジェローム・フリポ氏が挙げていました。これから、我々はこういったデータ集めをやっていかなければならないと思います。昨日行われた、全国温泉地サミットでは「新・湯治」という考え方で、議論されていたので、医療や健康の面でデータを収集して、活かしていくということがあるのではないかと思います。

それからもうひとつは、地域の特性に応じた差別化を行っていくというお話しがありました。これは常に言われていることですが、どんな特性があるのかということですが、今回のサミットのように、世界中の人が集まり、様々なお国自慢をしてみると、その中で自国の特性というものがわかってきます。その特性を見つけて、活かしていく。そうすることによって大分県の各地の温泉振興を図っていき、差別化を行っていきたいと考えています。今回のサミットはその参考になったと思っています。





# 世界温泉地サミット・第3回全国温泉地サミット 歓迎レセプション～ONSEN・ガストロノミー～

期日／2018年5月25日(金)  
場所／杉乃井ホテル

世界温泉地サミット実行委員会と環境省の合同で歓迎レセプションを開催しました。DRUM TAOのアトラクション、大分県産の食材を使った料理や地酒でおもてなしをするとともに、観光展示等により国内外へ大分の情報発信を行いました。

## 次 第

### オープニングアトラクション DRUM TAO

### 開 会

#### 主催者歓迎挨拶

世界温泉地サミット実行委員会 会長  
大分県知事

広瀬 勝貞

環境省自然環境局長

亀澤 玲治

### 参加者紹介

#### 参加者代表挨拶

前国連世界観光機関アフィリエイトメンバー部門長  
ヨランダ・ペルドモ 氏

### 来賓紹介

#### 乾 杯

世界温泉地サミット実行委員会 副会長  
別府市長

長野 恭紘

#### ～ 歓 談 ～

#### 中 締 め

世界温泉地サミット実行委員会 副会長  
公益社団法人ツーリズムおおいた会長

幸重 綱二

### 閉 会

### 参加者出迎え



### オープニングアトラクション



DRUM TAO

### 主催者歓迎挨拶



世界温泉地サミット実行委員会 会長  
大分県知事 広瀬 勝貞



環境省自然環境局長 亀澤 玲治

### 参加者代表挨拶



前国連世界観光機関アフィリエイトメンバー部門長  
ヨランダ・ペルドモ 氏

#### ヨランダ・ペルドモ氏 参加者代表挨拶 (抜粋)

観光は、貧困や富の不平等の軽減、文化の保存、無形有形遺産の保護、ジェンダーの平等の促進、そして、環境・社会・経済の発展と持続可能性の向上において、改革力をもつツール。

観光は、良い方向に価値変化を起こしていくほど影響力をもち、万人に利益をもたらす数少ない商業活動の一つ。健康・安心産業と観光部門の組合せは、人類の幸福に応える最善の選択。

今回のサミットは、この動きをさらに進め、機会を生み出す源である。

大分県そして日本における観光の確立、国連持続可能な開発目標と完全に連動したモデルの構築、総じて人類が最終的に必要としているもの、つまり、幸福に応えることに寄与すると私は確信している。



乾杯



世界温泉地サミット実行委員会 副会長  
別府市長 長野 恭紘

中締め



世界温泉地サミット実行委員会 副会長  
公益社団法人ツーリズムおいた会長 幸重 綱二

メニュー

屋 台

豊後牛肉の鉄板焼き、大分産椎茸添え  
とり天（カボスポン酢）  
団子汁  
握り寿司（津久見マグロ、ぶり、鯛）  
大分の海の幸 刺身（関アジ、関イサキ、津久見マグロ）  
オードブル盛り合わせ カボス添え 大分産大葉  
自家製手作り燻製（地だこ、間八、マグロ、地鶏）カボス添え  
県産野菜のサラダバー  
県産野菜で仕上げたサンドイッチ  
ロールサンド、オープンサンド  
県産フルーツ盛り合わせ  
県産果実で仕上げた各種デザート

ビュッフェコーナー

温製料理

大分冠地鶏のカボスの香り、高田白ネギ、エリンギ  
豊後水道海の幸 フィヤベース、竹田サフラン、中津ハモ他  
豊後牛のビーフンチュー仕立て、春野菜添え、竹の子  
佐伯産鯛の白ワイン蒸し、ヒオウギ貝添え、姫島ヒジキ

中 華

米の恵み豚の東坡肉  
カレイの姿揚げ甘酢あんかけ（蒲江産）  
チャーハン

ハラール料理

仔羊のグリル、地場野菜添え  
鶏のグリル、香草パン粉焼き（アスパラ）  
ベジタリアン  
地場野菜の蒸し物、天ぷら、テリーヌ

会場内の様子



大分県産品PRブース



農産物展示



工芸品展示



県産酒試飲コーナー